

令和4年度 第2回芳賀町学校運営協議会(分科会)会議録			
日 時	令和4年 6月28日(火) 10:00 ~ 11:30		
場 所	芳賀東小学校 会議室		
出席者	[学校運営協議会委員] 稲川 浩司 岡田 由美子 吉永 教雄 野澤 儀之 岩崎 進 小山 佳子 今井 由佳 手塚 真 (岩村 智織(北小分科会委員)) (協議会委員出席 9名)		
	[学校関係出席者] 小林 春彦(校長) 半田 高代(教頭) 高久 誠(教務主任・地域連携教員)		
司 会	半田 高代	記録	半田 高代
概 要	○校長あいさつ(学校経営の進捗状況・児童のお囃子発表を含む。) ○懇談		
協議事項 1 開会 2 校長あいさつ ○コロナ対応、熱中症対応の両面での教育活動 ○学校運営の方針に基づいての運営の状況について (特に、今年度新たに加えた学校教育目標「ふるさとをおもう子」について伝えた。) ・学校支援ボランティア(書写、調理、カラフル活動、読み聞かせ) ・ピアノ寄贈・お礼の会 ・田植え・稲刈り・看板作り ・感謝の会(農音) ・陶芸教室 ・太々神楽 ・郷土芸能クラブ ・お囃子体験(音楽科) ・地域の参加(LRTに関するコンクール・表彰式、国体炬火イベント、クリーン芳賀) ○今後の新たな活動について ・お囃子において地域の方と共演・協力活動ができるとよい。(お祭りやイベント等) ○活動上の問題点(活動を継続させるために) ・休日の引率、送迎できない家庭が出た場合の対応方法についての仕組みづくり ※業間・・・郷土芸能クラブの5・6年生によるお囃子(和太鼓)発表 3 懇談 (吉永教) 今までの校外への活動はどのように対応してきたのか。音楽部などの部活動もどのように対応しているのか。 (教頭) カリキュラム内での活動であれば、勤務内での引率であったため、職員が計画・引率をしてきた。音楽部は、保護者会があり保護者の協力が得られる。野球部などは社会体育になり外部の指導者が対応している。 (稲川) 郷土芸能クラブの児童は何人いて、太鼓はどのように準備しているのか。 (高久) 14名。お囃子連合会から借りている。宝くじの助成金で購入した、芳賀町の物である。中には、個人の物もある。管理を任せて頂いている。			

- (岩崎) 部活動と同じ位置付けにして、保護者に手伝ってもらおうようにしてはどうか。
- (手塚) 学校教育として、教育委員会に相談するべきなのではないか。今年度中に単独予算をつくる等、教育委員会が主体となって仕組づくりを進めてはどうか。
- (校長) そうであれば、まず、生涯学習課にも相談するとよいか。
- (稲川) 子どもたちが地元のお祭りに参加しやすい受け皿をつくれると理想である。すぐには難しいので、動き出しは保護者に協力してもらい、町に協力してもらい、行く行くは地元でというように進めてはどうか。部活動とは分けるようになるか。
- (手塚) 学校運営協議会も4年目になった。システムづくりが必要なのではないか。
- 町の規則で委員は20人以内であるが、それ以外にもアドバイザー等を付けることができる。協議会では、その費用を払えるようになっているし、保険も対応できる。協力者の善意だけでは続かない。学校運営協議会規則の10条の「委員」を「委員等」と改正するとよいのではないか。
- (岩村) ボランティアコーディネーターの立場から。児童を集めて運転するのは、責任が重すぎる。保険に入るなどのきちんとしたシステムがあるとよい。
- (岩崎) お囃子を発表して見て頂く場が欲しいから、このような話題になったのだと思うが、指導者の高久先生が異動したら、この活動は続かないのではないか。保護者に協力してもらうことで、保護者をイベントに引っ張る良さもあるのではないか。
- (高久) お囃子は聴かせる太鼓である。芳賀中の柔道部の生徒に指導していた経験から、やっているうちに子どもたちは楽しくなっていた。各地区では、お囃子の担い手不足という問題を抱えている。部活動の生徒は、ジュースやフランクフルトをもらい、楽しんだ。地域の人々も子どもたちの参加を喜んでくれた。指導者の自分も楽しんだ。お互い Win・Win の関係である。コロナ対応もあるが、指導者として地域の人を呼び、徐々に子どもたちが馴染んでいくようにしたい。
- (校長) 重要なことは、続けていくことだと思う。
- (手塚) 地域と学校が一体となっていくために、課題としてシステムづくりがあるのだと思う。
- (校長) 生涯学習課にも支援してもらいたいと思う。地域と学校とのあり方をどのように持って行くか考えていきたい。
- (高久) クラブを立ち上げるに当たり、「郷土芸能クラブ」という名前にした訳は、八雲神社の太々神楽や延生の盆踊りもあるからである。子どもたちに、興味をもたせるような取組をしていきたい。自分はこれらについては教えることができない。地域の講師が必要である。
- (手塚) 団体を支援する資金が出る町の制度を利用する方法もある。「地域伝統行事支援会」等で利用してはどうか。下延生の「ぼうじぼ」等も活用した。
- (岡田) 太々神楽は、月1回の練習では踊れるようにならない。「太々神楽保存会」が稲毛他地区にある。そのような会と連携して回を重ねる必要があるだろう。
- 学校のクラブは、伝統芸能との出会いの場としてのクラブという捉え方でよいだろうか。
- (高久) そう考えている。伝統芸能にクラブや社会科で出会って、地元の活動について知らせたり練習したりして、地元との関わりへつなげていきたい。
- (今井) 高久先生が、東小から異動するとき、太鼓はどうなるのか。
- (高久) 太鼓の管理は永久的に任されているので、東小の太鼓の活動は続けることができる。

(手塚) 地域へ出て行って、地域の人のためになる活動にしていくことが大切である。方法論になるが、本会の規則9条・10条の整備をするとよいと思う。

(校長) 今後、郷土芸能だけではなく、別のことに変わっていくかも知れない。大切なことは、地域の人と関わることであり、いろいろなことができると思う。今年は間に合わないかもしれないが延生の盆踊りで踊ることや歌うこともできるのではないかと思う。

(野澤) 延生の盆踊りはやる方向である。細かいことは、これから決めていく。いつも参加している方々が高齢になってきているので、小学生が来てくれるとよい。

(手塚) 学校通信「こころ」の1月号・4月号を感動して読んだ。東小の学校経営構想の目標4は、他の学校も参考にしてほしい。校長先生の考え方が立派で尊敬している。

「令和4年度大字自治会事業計画・祭礼行事計画一覧」を委員の皆さんに配付した。参考にして欲しい。

(校長) 本日は、貴重な意見をたくさん頂き、参考になる。頂いた意見を基に検討し、引率・送迎といった問題点の解決に生かしていきたい。ありがとうございました。

4 閉会

※ 自治会長の手塚様から提供して頂いた「令和4年度大字自治会事業計画・祭礼行事計画一覧」は全学級の年間指導計画のファイルに綴じた。